

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第32回

会社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第32回は、プラスチック試作金型(注1)と2色成形(注2)のスペシャリストである陣内金型工業株式会社をご紹介します。同社には、ISO取得支援助成事業や設備貸与事業(注3)などをご利用いただいております。

従業員の幸せの先にある企業の発展～No.1優良企業を目指して

陣内金型工業株式会社

独自の視点で変化を乗り切り事業基盤を形成

創業は昭和38年。金型職人だった初代社長が長年の夢であった独立を果たしたことが始まりである。従業員は職人仲間3名と息子である現社長。当時は高度経済成長期の真っただ中で、特別な営業活動をしなくても次々に仕事が入ってきた。

父の独立とともに入社した現社長は創業からわずか3年ほどで転換期を迎えた。突如従業員が自分しかいなくなってしまったのだ。先代社長は根っからの職人肌で経営に暗い。「自分がしっかりしなければ」。入社当初の「一従業員」という気楽さから一転「父と共に会社を作る」という重責を負う立場に変わった。

金型メーカーとして創業してから十数年は、主に玩具の金型製造を担ってきた。しかし時代の移り変わりとともに、取引先が玩具メーカーから自動車部品メーカーに変わっていった。当時の自動車業界の成長スピードは早く、金型もひたすら短納期を要請され、ついには技術を持ち合わせていない成形加工の依頼まで来るようになった。

短納期等、取引先の要請に徹底的に応えてきた同社は、迷うことなく成形加工も請け負うことに決めた。しかし、技術は取引先から基礎を教わっただけで、あとは現社長が独学で習得していった。手探り状態で日夜試行錯誤の連続ではあったが、それがむしろ功を奏し、取引先の要請に応えるのに十分な技術を短期間で習得できたのである。ここが現在の事業のスタート地点といえよう。

事業の将来を占う2つの気づき

金型製造と成形加工の2事業を柱に、順調に運営してきた同社。21世紀を迎える頃、先代社長が米寿のときに現社長が経営を引き継いだ。もともと実質的な経営者ではあったが、引き継いでみて、もっと早くから社の経営面を重視していればと感じたそう。この時、同社の飛躍に欠かせない重要な点に気づいたという。一つは、従業員の活力が低下

していること。もう一つは、ISO9001取得なしでは取引先の発注対象企業にもなりえないという自動車関連産業の当時の流れだ。

取引先に言われるでもなく、ISO認証取得による品質の保持が企業継続の最低条件だと悟った社長は、早速取得に向けて動き出す。ISO9001を認証取得するため、平成14年、会社のISO取得支援助成金を申し込んだ。少人数ということもあり機動力のある同社は、助成が決定したこともはずみの一つとなり、社長の号令とともに一丸となってISO認証取得作業を進めた。その過程で、元々のまとまりの良さもあり、従業員の活気が高まっていくという嬉しいオマケがついてきた。さらに、良いアイデアが浮かび、良い製品作りにつながったうえ、ノウハウの蓄積もできるようになったのである。またこの頃、会社の設備貸与事業を利用して導入した



CAD/CAMソフトに向かって金型設計する精鋭たち

CAD/CAMソフトにより、作業時間とコストを減らすことができました。これも従業員の士気の向上につながっていった。

ISO認証取得作業で見た全員参加の一体経営

全従業員と社長、たった8名での取得にはさぞかし苦勞が多かろうとの予想に反し「多少の苦勞はありましたが、良いことばかり思い浮かびます」と社長は言う。取得により得たメリットを表に示す。

- ・作業の見える化などにより、仕事の流れが驚くほどスムーズになり、最適な作業量を維持できるようになった。
- ・従業員同士の意思疎通がスムーズになった。
- ・取引先からのクレーム・不適合が減った。あったとしても対処方法を従業員が率先して考えるようになった。
- ・取引先が安心して仕事を出してくれているように感じる。
- ・定期審査・再登録審査を通過するのは当然で、さらにレベルを高めようという気概を常にもっている。

ISO認証取得への取り組みで、従業員個々人が主体性をもちつつも、一体となって進むことがいかにスムーズな経営に結びつくかを、社長も従業員も体感できたという。



一体経営を実現する社長と従業員一同

社長の姿勢で将来が決まる、不況との対峙方法

ISO認証取得後にさらなる好循環を得た同社は、業界でもまだ少ない2色成形機を平成18年に導入。これまで培ったプラスチック成形加工技術が使えるうに、他社との差別化を明確にできるからだ。

さっそく2色成形機に合う金型の設計・製造を始めた同社であったが、築いてきた成形技術を最大限に生かせる金型作りは非常に難航した。また、通常の業務に支障を来さないような開発人材・資金の確保等の問題もあったがなんとか乗り越え、半年後、ようやく2色成形用金型を開発できた。同社の知恵の詰まった営業秘密の金型であるため詳細は記せない。しかし、これが開発できたおかげで、同社の技術のさらなる差別化が可能となり、取引先からのより高度な要望にも十分応えられるようになって、今では自信をもって「2色成形のスペシャリスト」と自らを名乗れるような会社にまで成長した。そのせいか、昨年9月のリーマンショック以降、自動車関連製造業が大打撃を受けているなか、同社はまだその影響は受けていないという。



同社事業の成長分野を支える2色成形機と熟練技術者

ただ、余波が近々同社に及ぶのは間違いないと見る社長は、乗り越えるのに一番必要なのは社長の姿勢であるという。「私は、自分に起こることのすべては“必

ず自分のプラスになる”“必ず解決できる”“予期せぬところから解決策が見えてくる”と常に思っています。また、毎朝目覚めると声に出してこう言うんです。“今日もいい日になるぞ、今日もいい日にするぞ”。社長が前向きな意識をもつことで社内のプラスの意識を醸成しています」。

ここで、社長の経営に対する姿勢を紹介しよう。経営理念の最上位概念である「私たちの夢」は、「お客様に真に喜ばれる製品とサービスを供給する、従業員とその家族を幸せにする会社になる、創造と挑戦で日本一の優良企業にする」(筆者注:簡略化して記載)である。その夢に向かって「経営理念」「社訓」「全社員で取り組む5つの行動方針」の3つを立てている。取材中、「従業員とその家族が幸せになれるような会社でないと会社の存続・発展はない」と何度も述べていたことから、これを最重要視しているようだ。実際同社では生き生きと作業を進める従業員の姿が見られた。「経営は人なり」。それを真に理解し経営を進めている社長の姿がはっきりと浮かびあがった。

日本一の優良企業を目指して

最後に、会社の将来について伺うと、「会社を大きくしたいとか、上場したいという思いはありません。小規模でも大きく社会に貢献できる会社であり続けたいんです。そして、従業員の幸せを継続させるために日本一の優良企業を目指したいです」。とても控えめな口調ながら、夢を語る社長からは懐の深さが感じられた。迫り来る不況の波を乗り越えて、さらに一皮むけた同社に注目していきたい。(城東支社 大木裕子)



入社2年目若手ホープも最新設備をらくらく操作

- (注1) プラスチック試作金型:プラスチック製品の試作品を成形するための金型。
- (注2) 2色成形:2つの色または質の異なる2つの材料を同時に成形する技術。製造工程・コストの削減が図れる。単色成形品を2つ組み合わせて作る製品より2色成形で作る製品のほうが強度が高い。また、印刷のように磨耗しないのも特徴。
- (注3) 設備貸与事業:この事業は現在休止中だが、平成21年3月より新たに設備リース事業が開始されている。

企業名:陣内金型工業株式会社
代表者:陣内克士
資本金:1,000万円
従業員数:7名
本社所在地:
東京都江戸川区北小岩6-17-14
TEL: 03-3658-5854
FAX: 03-3673-5601
URL: <http://www.jinnai.org>